

2025. 11. 24

## 「史跡磨き上げプロジェクト 高天神城跡」

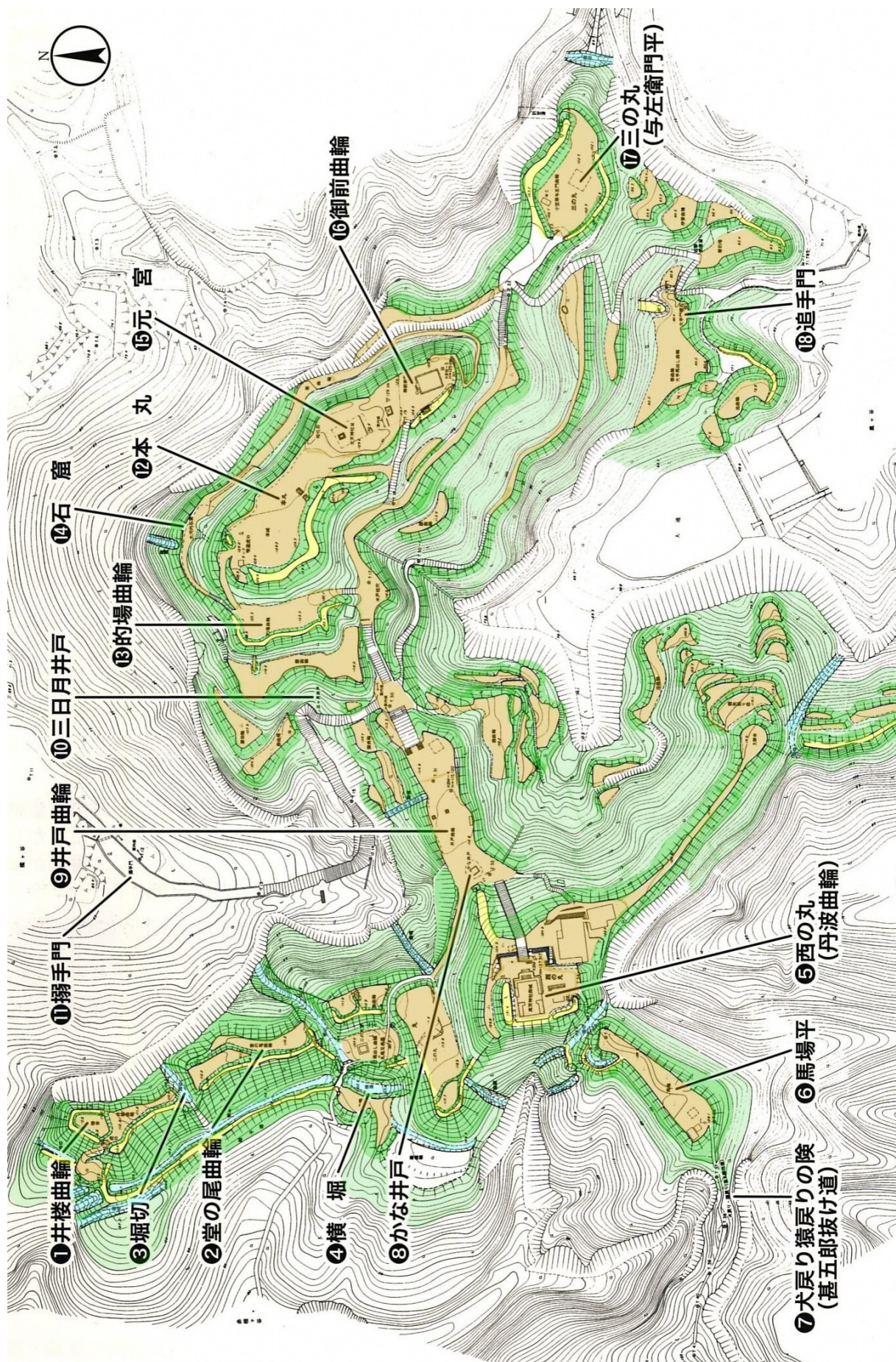
加藤理文（日本城郭協会）

高天神城攻防戦年表	
天正2年5月 (1574)	20日、武田勝頼が高天神城を攻囲。
6月	17日、徳川方の城主小笠原信興は武田氏に与し、開城。
8月	1日、徳川方、馬伏塚城を改修。
天正3年 (1575)	徳川方、岡崎の城山を築城。
天正4年 (1576)	徳川方、横須賀城を築城。
天正5年 (1577)	徳川方、小笠山砦を改修。
天正6～8年 (1578～80)	徳川方、獅子ヶ鼻砦・中村砦・能ヶ坂砦・火ヶ嶺砦・三井山砦を築城。
天正9年1月 (1581)	城主岡部元信が降伏を申し出るが、徳川方は降伏の申し出を拒否。
3月	22日、岡部元信ら全員出撃するが落城。



徳川家康による高天神城包囲網図









高天神城堂の尾曲輪実測図



## 徳川家康による高天神攻め

当初馬伏塚城（袋井市）の持つ戦略的地位が極めて大きかった。

⇒諏訪原城・高天神城を拠点に、西遠江に迫る敵方の監視と、最前線の役目を一手に担う重要拠点であった。

⇒徳川方の本陣、駐屯地・物資集散地 …中遠江から東遠江奪還戦の徳が軍の拠点。

⇒残存ラグーンに面した立地の良さで、兵站確保が容易、東側からの攻撃に対し、ラグーンが天然の堀の役目。

⇒武田軍の西進を阻むのが、初期の徳川方の戦略であった。

天正3年（1575）長篠合戦の大勝利 …遠江情勢は大きく変化

⇒二俣城の奪還に成功 ⇒ 易々と戦線を東へと移動 ⇒ 諏訪原城を奪還。

⇒武田軍の遠江兵站基地の消滅 …高天神城の孤立無援化

⇒馬伏塚城からより高天神城に近い岡崎の城山（袋井市）への築城。

⇒岡崎の城山から、横須賀城（掛川市）へと兵站基地を移動。

沿岸ルートの確保 ⇒スムーズな物資輸送と兵力の補充・交換が容易に。

天正6～8年 ⇒高天神城包囲網と呼ばれる6砦を構築、コ字形に取り囲んだ。

- ・北から小笠山砦（石川康通）、能ヶ坂砦（本多備後守）、火ヶ峰砦（大須賀康高）、獅子ヶ鼻砦（大須賀康高）、中村城山砦（大須賀康高）、三井山砦（酒井重忠）
- ・この他20ヶ所にもおよぶ城砦群を築き、高天神城への補給路を完全に遮断。
- ・高天神城の周りに堀を掘り廻らし、柵を幾重にも設けて、人馬の行き来を完全に絶ったと言われるが定かではない。

⇒天正9年3月までの16ヶ月に渡って包囲。

⇒『家忠日記』…砦の普請に関わる記載 … 柵、堀、堀切普請

多数の兵力の移動と駐屯を目的に築かれた。

- ・万が一に備えて兵力の駐屯地を確保 ⇒ 駿河から武田軍の援軍到来への備え。
- ・長期化する戦線に備え ⇒ 常に食料・武器を常備するための施設。

ある程度の兵力で取り囲みつつ、万が一の後詰に備え、確実に城方の戦意を喪失させ、持久戦・消耗戦の中で、味方の兵力の損失を抑え、自落するのを待つ。

⇒ 機能分化した陣城を20数か所に配置し、より安全で確実な包囲作戦を継続。

天正9年3月 高天神城兵、全員出撃し全滅 ⇒落城、廃城